

= 普及情報 =

No 4

平成28年7月28日

東部農林振興センター出雲農業普及部

標題 斐川たまねぎ 適期防除により過去最高の高値！！

(ダイジェスト)

全国のたまねぎ産地がべと病の影響を受ける中、斐川野菜部会では病虫害防除の徹底を呼び掛けたことから、その影響も少なく、また玉の肥大も良好となりました。そのため、初出荷以降2,400円/10kg前後（例年に比べ1,000円程度高値）で取引され、過去最高の高値が続いています。9月から来年産の播種が始まりますが、今年産と同様に安定的に生産できるよう支援していきます。

本年産たまねぎは全国の主産地でべと病の発生が予想されたことから3月以降に佐賀県、長崎県、兵庫県などで注意報が発表され、さらに、佐賀県では警報も発表されました。

島根県でも3月30日にべと病の注意報が発表され、斐川野菜部会では4月に巡回指導や現地指導会を行い、農家に防除の徹底を呼びかけ、その結果、べと病の影響は少なく玉の肥大も良好となりました。そうした中、全国的にべと病の被害が大きく市場が品薄状態であることから、斐川たまねぎの早い出荷を望まれ、例年より1週間出荷が早まり、共選は6月29日、個選は7月6日の初出荷となりました。広島市場では個選秀L規格で2,400円/10kgの高価格で取引されました。初出荷から4週間たっても同規格が2,400円/10kg前後（7月26日現在）の高価格で推移し、過去最高であった昨年を上回る状況が続いています。

まだ出荷途中ですが、これから来年産の育苗準備が始まります。7月26日には育苗講習会が開催され、今年の市況について農家からは「今年の高値には驚いている。嬉しいこと。」などの声が聞かれ、来年産の生産に向け励みになっています。

普及部としてはJAしまね斐川地区本部と農業技術センターが協力し、これを契機に更なる生産拡大を図るとともに薬剤試験の実証ほを設けるなど、今後の病虫害対策を検討していきます。



たまねぎを乾燥させるため吊っている様子



箱詰め作業中